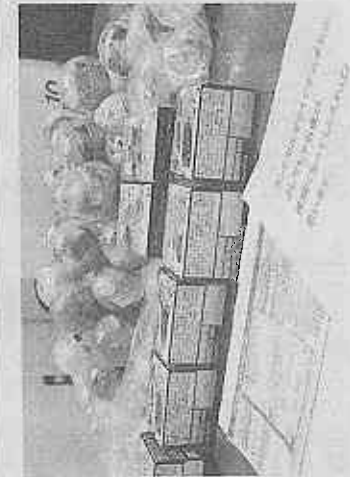


# 横浜



全国で漫画「タイガーマスク」の主人公、伊達直人を名乗る人から児童養護施設などにプレゼントが届くなか、県内でも11日、新たな善意が10件確認された。

県中央児童相談所(藤沢市)には11日、40〜50歳代の男性が現金3万円と手紙が入った封筒を職員に手渡し、立ち去った。県の県北地域児童相談所(相模原市)でも現金10万円入りの封筒と鉛筆4本が見つかった。児童養護施設「中心子どもの家(同)」には10日、玄関にスナック菓子300本入りの袋二つが置かれていた。

川崎市の児童養護施設「新日本学園」でも紙袋が置かれ、

## 「タイガーマスク」新たに10件

ノートや色鉛筆のセットなど計46点が入っていた。同園は4月に新1年生になる子供たち5人に文房具を使ってもらう予定で、鈴木園長(62)は「贈ってくれた方の気持ちをしっかりと伝えていきたい」と話した。同市の中央児童相談所にもヨロヨロなど計98点が郵送で届いた。

こうした動きについて、大阪大の山内直人教授(公共経済)は「(不況を背景に)子供の貧困が深刻化しており、罪のない子供にみじめな思いをさせたくないというメッセージが読み取れる。貧困が解消しない限り、こうした寄付が続くのでは」と話した。

横浜市では、市中央児童相談所の正面玄関前で10日、段ボール5箱などが置かれており、カバンなど20個と、ボクシング用グローブとミットが2セット入っていた。添えられた手紙の差出人は「OSK32」で他のケースと異なることなどから、相談所は念のため南署に届け出た。南署が拾得物として保管し、所有者が3か月間名乗り出なければ相談所に渡される。横浜市の担当者は「ランドセルや文房具が置かれていれば明らかに子供への贈り物と分かるが、子供用かどうか分からない品物は受け取る側も対応に困る」と話していた。



川崎市の中央児童相談所に送られてきたおもちゃ(左)相模原市の児童養護施設に置かれていた菓子